

## 公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」の開催について

1. 主 催：日本環境ホルモン学会、食品衛生学会、日本学術会議食料科学委員会／日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会／日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会／日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同毒性学分科会

2. 日 時：令和2年12月5日（土）13：30～17：30

3. 場 所：WebEX を用いたオンライン開催

4. 分科会の開催：開催予定なし

5. 開催趣旨：

環境においてホルモン用作用を示す環境ホルモンは、当初想定されていた環境エストロゲン類だけではなく、様々な化学物質が様々な機序を介していることが分かってきた。「食」を介して曝露が懸念されている環境ホルモンと、その多様な作用について、最新の情報を共有する。

6. 次 第：

座長：有菌 幸司（熊本大学薬学教育部 特任教授）

菅野 純（日本学術会議毒性学分科会委員長）

司会：石塚 真由美（北海道大学大学院獣医学研究院教授、日本学術会議第二部会員）

13時30分～13時35分

開会の挨拶：有菌 幸司（熊本大学薬学教育部 特任教授）

13時35分～14時05分

医薬品からの環境ホルモン（仮題）

石橋 弘志（愛媛大学大学院農学研究科准教授）

14時05分～14時35分

新興農薬の毒性と安全性（仮題）

池中 良徳（北海道大学大学院獣医学研究院准教授）

14時35分～15時05分

生活用品による健康被害と対策

河上 強志（国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部室長）

休憩 15時05分～15時15分

15時15分～15時45分

環境ホルモン作用と発達神経毒性評価法の確立（仮題）

掛山 正心（早稲田大学人間科学学術院教授）

15時45分～16時15分

情動認知行動試験の国際化とOECDへの提案（仮題）

種村 健太郎（東北大学農学研究科教授）

16時15分～16時45分

化学物質の妊娠期曝露による多世代、継世代とエピジェネティクス

野原 恵子（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センターフェロー、日本学術会議連携会員）

休憩 16時45分～17時00分

17時00分～17時25分

総合討論：環境ホルモンのリスクアセスメントのために

（菅野座長および各講演者）

17時25分～17時30分

閉会の挨拶：高井 伸二（北里大学獣医学部教授、日本学術会議第二部会員）

9. 関係部の承認の有無：※第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）